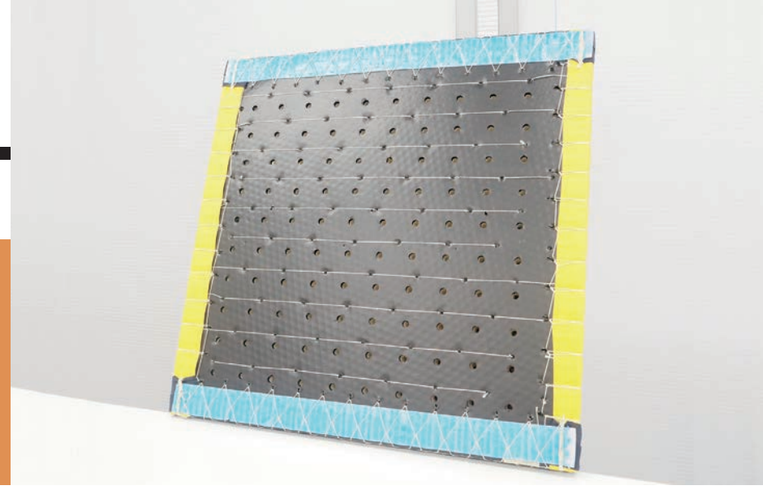
92

タバタ 株式会社

高品質な畳を低コストで提供



補助事業で量産できた畳の裏面

工場内写真

敷き詰められた「柔道部物語」

事業内容

オリジナル畳を展開

さまざまなバリエーションの畳やふすまを製造・販売している。畳では通常製品以外に人工カラー畳や琉球風畳などを展開している。また、熊本県八代の契約農場で7年間の研究開発を経て完成させたオリジナル高級畳「夢豊」や、伊藤園と共同開発した茶がらを使った抗菌性の高い「利休たたみ」を製造している。

時代に合った畳を開発

同社は昭和３２年に創業、平成３年に株式会社として設立された。販売先の約８０％はハウスメーカーや工務店、リフォーム会社、建築材料関係の卸業者で、約150社と取引している。残りの約20％がホームページや口コミによる一般の顧客で、住宅や宿泊施設、学校施設などのリフォーム需要が中心だ。伝統にとらわれすぎず、新しい機能を付与した畳を開発・製造することで新規ユーザーの開拓を進めている。

補助事業

介護・柔道競技用途の畳

介護用途の畳や、「柔道部物語」という柔道競技用途の畳を量産できる設備の導入を図った。これらの畳の特徴は畳の表面と裏面にある。表面は一定の摩擦係数を持たせるため、表面の塩ビ樹脂シートへのパターン印字を通常の畳よりも深くし、滑りにくくすることができる。また、裏面には多数の穴が空け、衝撃を吸収する効果を持たせている。

特別仕様の設備

表面のパターン印字では通常の畳に使用する金型を使ってプレス加工してきた。ただ、この場合、パターン印字を深くすると、通常の畳を生産する場合と比べて6倍の時間を要していた。また裏面の穴も職人が電動ドリルで1つずつ穴を空けていたので、膨大な時間がかかっていた。介護・柔道競技用途畳を普及させるためにも量産可能な生産体制を構築する必要があり、表面に深い溝を作成できる専用の金型と、裏面に穴を空ける特注の機械を導入することにした。

具体的成果

自動化による低コスト生産を達成

介護・柔道競技用途畳の生産工程において、畳の表面に対するパターン印字の効率化、裏面に対する穴あけ工程の全自動化を達成することができた。コストについては同社従来比で穴あけ工程が15分の1、パターン印字が6分の1に縮減することができた。全体的に見ても約４０％の製造コストカットにつなげることができた。手作業に頼る部分が多かった工程に専用の設備を導入したことで、短納期で高品質、低コストの介護・柔道競技用途畳を製造することが可能となった。

介護施設や学校への拡販を進める

低コストで介護・柔道競技用途畳を生産することができたことで、介護施設や学校などへの拡販を進めやすくなった。同社の介護・柔道競技用途畳には抗菌加工も施しており、清潔、安全かつ低価格な畳を提供できる体制が整った。中学校では武道必修化により柔道の授業が多く行われている。ただ柔道場がない学校では体育館に通常の柔道畳を敷き詰めて行われており、投げられた際の身体への衝撃が大きい。

「柔道部物語」は価格面がネックだったが、今後は低価格で生徒がダメージを受けにくい「柔道部物語」を公立学校に提案することができる。

今後の戦略

伝統にとらわれない

畳は２０年前と比較して３分の１の需要になっている。厳しい市場環境で廃業や事業を縮小する畳業者も多い。一方で、畳は日本文化を象徴するもので、ホテルや旅館などではインバウンド需要などもあり見直されている。

伝統の枠にとらわれず、時代の要請に合わせて、畳だけでなく、ふすまや障子の開発も進めていく。これら３点セットでハウスメーカーへの提案活動も強化しながら全国展開を図っていく。

人工畳の生産拡大

具体的な戦略では、使用用途、使用施設、利用者に合わせた高性能な人工畳の開発を進めていく。今回の補助事業で導入した設備により人工畳を低コストで提供することができる。畳の需要は全日本畳工業組合の調査によると年間約1，２００万畳。そのうち人工畳の需要は160万畳で、人工畳は今後も増加していくと見込まれる。

高品質で低コストの人工畳を提供できることで、天候に左右されやすく、生産者が減少している天然イ草の代替品としての人工畳も安定供給できるようになった。

タバタ 株式会社

代表取締役　田端 雅司

〒593−8312　大阪府堺市西区草部692

TEL. 072−274−2786　FAX. 072−271−3364

資本金／10，000千円　従業員／28名

主な取引先／大手ハウスメーカー、リフォーム会社、介護施設

主な保有設備／畳製造ライン3セットなど

主力製品／畳、ふすま、障子

短納期　企画力　小ロットOK　オンリーワン技術　量産OK　海外対応　試作OK　連携力

畳の地位向上を図っていきたい

代表取締役 **田端 雅司**

新しい商品を開発することで、従業員に夢を与えることができます。補助事業の成果を生かしながら、高品質な畳の開発を通して、畳そのものの位置付けも上げていきたいと思います。

http://www.tabata-ya.com/

取材を終えて

身体にやさしい畳で怪我予防を

柔道練習中の身体への衝撃を何とか緩和したいと考えていた柔道元全日本代表監督の斉藤仁氏からの相談から柔道畳「柔道部物語」が生まれた。田端社長は自身も柔道家。身体にやさしい柔道畳の普及により怪我や事故を減らしたい、という思いが印象深かった。同じく介護の現場でも衝撃を緩和する畳を展開し、高齢者の転倒リスクを低減していきたいという。